

令和6年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	一般部門
------	------

※プルダウンから選んでください

【1】事前相談について

(1) 市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談

コーディネーター名	中田
事前相談日時	令和6年4月24日(水)
申請可能と言わされた日時	令和6年4月24日(水)

※複数回相談した場合、全てご記入ください

(2) 協働を希望する課への事前相談 ※学生・高校生部門は不要です

協働希望課名	福祉健康センター総務課
事前相談日時	令和6年5月2日(木)
申請可能と言わされた日時	令和6年5月2日(木)

※複数回相談した場合、全てご記入ください

【2】応募要件について

該当する部門の応募要件の□内に、○を記載してください。（プルダウンになっています）

該当の部門	要件内容	
全部門共通		○
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としていない。	○
全部門共通		○
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	○
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1年以上の活動実績を持っている。	○
スタート、一般、団体連携	翌年3月31日までに事業を完了できる。	○
学生・高校生部門	翌年2月28日までに事業を完了できる。	
スタート部門		
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から3年以内の団体である。	
一般部門、団体連携部門	昨年度採用されていない事業である。	○
一般部門、団体連携部門		○

【3】申請者について

団体の名称	にじのわ ママと子どもの育ちラボ
団体名称のフリガナ	ニジノワ ママトコドモノソダチラボ
代表者	
役職名	代表
氏名（フリガナ）	森田綾（モリタアヤ）
団体の所在地	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
構成員	計 7 名 (内訳) (1) 市内関係者 5 名 (2) その他 2 名
設立年月日	2021 年 4 月 1 日 (設立 3 年目)
設立の目的	にじのわ ママと子どもの育ちラボは以下を目的とする。 ①地域の中にいる子育てに苦慮している親子が専門家に気軽に相談できる機会を提供する ②地域の中で子育て支援を行いたいと考えている団体に対して、子育て支援技術を伝達する
活動概要と団体のPR	にじのわ ママと子どもの育ちラボは、金沢市内で個人事業を展開している医療国家資格保持者による任意団体。病院や施設での臨床経験を活かし、多職種で情報交換しながら、地域の子育てをサポートしている。 ・発達が気になる子どもが療育につながるまでの待機場所として ・医療を受診することに抵抗がある親子の経由地点として ・子育てに悩む全ての親子が 医学的な知識がある専門職に気軽に育児相談・育児支援を受けられる場として 地域で子育てに関して悩んでいる親子を誰一人として取りこぼさないために 地域で活動している医療専門職のネットワークを広げながら深め、地域で活躍できる専門職としての専門性を高めながら、必要とされる子育て支援活動を行う。 <u>にじのわ ママサロン</u> 肩の力を抜いて子育てしよう。赤ちゃん連れの親子が楽しく遊べるあそび場を解放しています。スタッフは医療専門職です。子育ての中で気軽に相談できる場になるようスタッフも研修を積んでいます。 <u>抱っこ教室</u> 赤ちゃんもママも快適な抱っこを学ぼう。「抱っこが苦手」「ぎこちない...」とお悩みの方に向けて教室を行っています。

	<p>離乳食カフェ 温かいご飯を囲みながら悩みを解決。実際に親子で食べている様子を見ながら、スタッフおより必要な関わり方を伝えます。</p> <p>幼児教室（みつばちくらぶ・てんとうむしくらぶ） 穏やかな気持ちで集団の中で生活できる。「ちょっと敏感な所があって心配」「元気すぎる所があって園での生活が心配」こんな特性がある場合、集団活動を通して子どもの特性を伝え、特性に合う関わり方を伝えます。</p> <p>被災地支援 令和6年能登半島地震において被災した地域の子育て家族に対して支援を行っている。 ・緊急時に片づけをする際の、子どもの一時預かり事業 ・被災地域店舗の被災育児品を、金沢市内に二次避難している子育て家族へ配布する事業 ・金沢市内で開催している「にじのわサロン」「離乳食カフェ」を被災地にて開催</p>
HP,SNSのURL	https://www.instagram.com/nijinowa_salon
担当者連絡先	
役職名	代表
氏名（フリガナ）	森田綾（モリタアヤ）
住所	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
携帯電話番号	

※団体連携部門の場合、当該「【3】申請者」は連携先団体の分も必要であるため、シートをコピーし、シート名を「団体連携先」として記載願います。その場合、記載が必要な部分は「【3】申請者」部分のみです。

【4】企画内容について

提案事業・テーマ	(3) 人づくり
企画のタイトル	金沢市内の医療専門職による「子育ての学校・にじのわ」の開設に向けての準備事業
事業効果	※特に事業の対象者が具体的にどうなるかを以下に記入してください。
現状の地域課題	<p>【金沢市の妊娠・出産の動向】</p> <ul style="list-style-type: none">・金沢市の年間出生数は3066人（2023年）【資料①】・初産の平均年齢は30歳越え（30.2歳/2017年）【資料②】・初産が40歳を超えるケースは増加中・分娩数が減少→分娩取り扱い施設も減少 <p>高齢妊娠・出産の影響</p> <ul style="list-style-type: none">・医療の発展により、死亡事故は減少・低体重児の出生数の増加・妊娠・出産時の体調不良・回復不良（身体的にも精神的にも）・何事に関しても慎重になりやすい・産後ケア事業は増加傾向はあるが、まだまだ数は少なく、母親の精神的、育児における虐待等のリスクが高い親子が対象となりやすい・出産施設内での入院時支援や退院時支援では基本的なお世話技術の伝達で時間的にも母親の理解力的にも限界 <p>赤ちゃんの発達や子育てに関する情報を伝える余裕はない</p> <p>※2週間検診：成長しているかどうかの視点 健やかな発達、子育てに関するヒアリングやお話をなされにくく</p> <p>※1ヵ月訪問：順調に成長しているか 赤ちゃんのいる生活が軌道に乗っているか 母親は子育ての中で体調を崩していないかという視点が最も大切であり</p> <p>【現在の子育て環境におけるそれぞれの状況】</p> <p>養育者（ママを中心に）</p> <ul style="list-style-type: none">・赤ちゃんを見たことも触れたこともない人が赤ちゃんを育てる・妊娠中から心身の調子を崩しやすく、産後長時間赤ちゃんと付き合う体力がない・産院では退院時に必要な技術の伝達のみ・与えられたとしてもその先の情報を受け取る余裕はない・2週間検診・1ヵ月検診・新生児訪問の短時間の面談では子育て技術は整わない・出産後、継続的に子育てに関する相談、育児技術を得る環境がなく・子育ての悩みを解決する場がない・疑問に対して直接的な回答を求め、SNSなどの情報を頼りに子育てる <p>体が辛い・頭が働かない・こころが辛い・知らない・わからない →子育てができるスタートラインに立てない →強制的に子育てが開始しても、疑問を解消する場がない →単発・短時間で指導しても、情報・技術を受け取れきれず、生活が楽にならない</p>

現状の地域課題	<p>赤ちゃん自身</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早産児・低体重児が増え、赤ちゃん自身の体力が弱い ・重力に抗する事が難しく、地球環境へ不適応を示しやすい ・寝ない・起きられない・飲めない・出せないというトラブルにつながる ・機嫌が悪い・抱きにくい・抱っこしていないと過ごせないという状況につながりやすく 養育者の負担が高まる <p>体力がない・呼吸・哺乳・消化吸收・排泄ができない →機嫌がわるい・手がかかり続けて負担感が強い →「愛おしい」と感じてもらえる土台に登れない</p> <p>【支援者・支援者予備軍（学生）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育者が困っていることに対して「いま・ここで・なんとかできる」方法論を求められる ・従来通りの支援では支援が上手くいかない ・行政では公平性を求められるため、ここに合わせた対応に限界がある ・親子が安心して子育てしている様子を見届けることが難しい <p>子育て初期における安心・安全な子育て環境を整えること 親子の信頼関係・愛着関係の形成に非常に問題</p> <p>⇒・子育て初期の親子が気軽に集い情報交換できる場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的根拠に添った知識と技術の提供 ・可能な限り養育者の行動化を図る（主導的なサービス提供は行わない） <p>⇒子育て中の親子が主体的に参加して スタッフと交流する中で、養育者としての力を備えていける事業を展開したい</p> <hr/> <p>【にじのわ ママと子どもの育ちラボの課題】 【資料③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表森田の高い専門性とスタッフが医療専門職であるという点が 強みであり信頼してもらえる点であった ・にじのわ事業（にじのわママサロン、抱っこ教室、離乳食カフェ）は即満席になる事業で あり、ニーズがある事業だが、受け入れられる人数に限りがあり 金沢市民の期待に応えているとはいえない ・スタッフになりたい、ボランティアとして活動したいという申し出はあるが、 育成するプログラムは存在していない
---------	--

現状の地域課題	<p>【令和5年度チャレンジ事業】</p> <p>「抱っこ教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成：赤ちゃんの特徴やお取り扱い ・抱っこ教室：実際に赤ちゃんの様子の見方や関わり方、抱っこの方法に関して学ぶ その場で子育ての不安は疑問に応える時間を設ける <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは概ね良好 ・予約は案内を出してすぐに満席 ・周囲より「抱っこ教室の予約が取れない」という意見がでていた ・市民のニーズ・期待に対して応えることができない状態 <p>【考えられる課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にじのわはボランティア団体であり、スタッフ人数も5名と少人数 金沢市民からのニーズは高いが、現行の人数で開催数や受け入れ枠を拡大することは非現実的である ・スタッフとして活動できる条件に <ul style="list-style-type: none"> ①医療専門職であること ②にじのわが主催する「発達講座・初級（旧：発達基礎講座）」終了していること ③代表森田との面談により、にじのわの活動方針を理解し同意を得られた場合 <p style="text-align: center;">↓ ↓</p> <p>枠組みの拡大が必要。スタッフを育成する必要がある</p> <p>【具体的に考えられる手段】</p> <p><にじのわの組織運営の拡大> 【資料④】</p> <p><にじのわ・スタッフ養成講座 開講> 【資料⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★にじのわの理念・組織運営 ★にじのわの教室の内容とそれぞれの目的 ★各教室のスタッフの役割と実施してほしいこと ★各教室の評価の視点と実技指導 ・実習の場は「抱っこ教室」「離乳食カフェ」「幼児教室」 ・スタッフへのアドバイスは代表森田が行う ・受講資格：既存のにじのわスタッフ ボランティア養成講座を受講後ボランティアとして1年活動 医療専門職である
---------	---

	<p><にじのわ・ボランティア養成講座 開講></p> <p>終了後ボランティアスタッフとして活躍してもらう (にじのわサロン・抱っこ教室・離乳食カフェ・幼児教室へ派遣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座はオンライン講座と対面講座がある ・講座内容 <ul style="list-style-type: none"> ★にじのわについて・ボランティア養成講座の目的 ★母親の体と赤ちゃんの育ちについて ★支援者として備えたい力 ★支援者に知ってほしい赤ちゃんの発達 ★赤ちゃんの寝姿勢と寝姿勢の整え方 ★抱っこの話 ・実習の場は「にじのわサロン」「抱っこ教室」の2か所とする ・実習のサポートはにじのわスタッフにより実施 ・受講資格：金沢市内在住、にじのわ事業に興味がある方 <p><ボランティア養成講座><スタッフ養成講座>を開催することで にじのわ事業「にじのわサロン」「抱っこ教室」を実施する上での実働のスタッフを確保 開催機械の増加につながる</p> <p>【抱っこ教室の開催】<資料⑥></p> <p>令和6年度は</p> <p>8月、9月、10月、11月、12月、R71月、2月 10時～11時、11時～12時の二部構成 場所：金沢未来のまち創造館、または月照寺にて開催 参加費：2,500円 目的：低月齢の赤ちゃんの仕組みを知る 抱っこをする前に整えたい「生活リズム」「寝姿勢」のことを知る 我が子に合う「寝姿勢」の工夫をする 今の我が子に合う「抱っこ」を知り、練習の機会を得る</p> <p>変更部分：</p> <p><座学部分は動画配信（実習は対面）><実習の機会を増やす></p> <p><座学部分を動画配信>にした理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産直後の養育者の記憶できる容量は限界がある ・赤ちゃんの育ちは日々変化している 時間をあけてまた聞きたくなる ・繰り返し聞くことで理解できることが多い ・実習参加後に復習として視聴可能 <p><実習の機会を増やす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習は対面講座とする ・座学の時間が減った分、実習時間に充てができる ・有料化したことで、座学を視聴したうえで、興味のある人のみが申し込むことができる <p>興味のある多くの金沢市民に情報と技術を届ける事ができる また子育ての悩みに対して、受け身的ではなく主体的な行動化を促進できる</p>
--	--

事業の実施により期待される効果	<p>子育てをするすべての人に 安心と愉しさを のコンセプトのもと 金沢市内で赤ちゃんを育てているすべての親子に抱っこ教室に参加してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんを知らない養育者が赤ちゃんを知ることで穏やかな気持ちで 主体的に子育てが出来る ・赤ちゃんを育てることは、知識の押し付けや正解を探すことではなく 情動を交流させることであり、にじのわがもっとも伝えたいこと ・乳児期の情動交流及び安定した親子関係が、結果的に親子の信頼関係の安定につながる <p>①にじのわボランティアスタッフ人口の増加 ⇒金沢市内にじのわのサービスを拡大する人材の確保 ⇒にじのわサロン・抱っこ教室・離乳食カフェ・幼児教室の開催数を増やすことができる</p> <p>②養育者向け情報の拡散力強化 ニーズがある人すべてに届けられる情報を届ける ⇒まずは金沢市内で子育てに苦慮している養育者とコンタクトをとる機会を増やす ※無料動画の配布：赤ちゃんの体の仕組み ⇒にじのわのコンセプトとマッチする親子に 動画講座と対面・実技編に来ていただけるよう、選択の機会を作る (昨年度は抱っこ教室は500円〈保険代〉 今年度は2500円と有料化を図る)</p> <p>にじのわのコンセプトをより強く伝えながら にじのわ事業の人材を育てる その結果 にじのわが支えられる親子を数多く直接接觸できるようになることで にじのわが伝えたい子育て像と近い親子が 成し遂げたい子育てができるように支える仕組みが整う</p> <p><今後の予定> この事業をもとに、にじのわ ママと子どもの育ちラボのNPO法人化を目指す【資料④】</p> <p><金沢市と協働したいと願う背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の事業は、困ったときに助ける場所ではなく、子育てしやすいまちづくりを願っている事を伝えたい、抱っこ教室の事業だけでなく、日々の生活に関して相談できる場所であるということを伝えたい ・民間が開催する事業を見守っていてほしい ・可能なのであれば、金沢市が示す子育て支援の方向性に添いながら、時に意見交換して、民間企業だから出来る方向性を模索していきたい
その他	
事業の概要	

	<p>具体的な実施内容 ※「誰が」「何を」「いつ」「どのくらい」「どこで」「どのように」実施するのかを具体的に記入してください。</p> <p>1) ボランティア養成講座開催【資料⑤】</p> <p>2) スタッフ養成講座開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外部講師によるマネジメント研修、接遇研修（スタッフのみ） ②代表森田によるスタッフ向け技術研修 ③ボランティアスタッフ・スタッフのための動画作成 ④が終了 <p>⇒編集スタッフによる編集作業</p> <p>⇒にじのわチャンネル（YouTube）にアップ</p> <p>パスワード管理</p> <p>注) スタッフ：医療専門職で構成され、にじのわ団体運営の意思決定に携わり、かつボランティアスタッフの指導にあたる人材 ボランティアスタッフ：資格は問わない。事業を開催する際に必要な配置につき、実際に親子に関わることが出来る人材</p> <p>3) 抱っこ教室開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①チラシ作成（昨年度のものを調整） ②日程調整・予約・支払い ③にじのわスタッフによる開催 <p>動画の作成（ボランティア養成講座動画を使用） →編集後リンクをチラシとInstagramに添付</p> <p>代表森田も同席、スタッフの育成にあたる</p>
--	---

企画内容にかかる注意事項

※単発的なイベントで終わるものではなく、通年の活動や今後に繋がる継続性を考慮した事業を提案してください。

※実施方法（予定日時・予定場所・実施形態・予定講師・参加見込数）など出来るだけ具体的に記載ください。

別途資料を添付する場合は、A4サイズをお願いします。

※既存の事業で応募する場合、工夫や改善した点を明確にしてください。

【5】事業収支予算書

委託費

300,000円

収入の部

(単位：円)

科目	金額	内訳など
金沢市委託金	300,000	
参加者負担金	140,000	2,500円×4組×2回×7日=140,000円
自己負担金	6,560	
計【A】	446,560	

支出の部

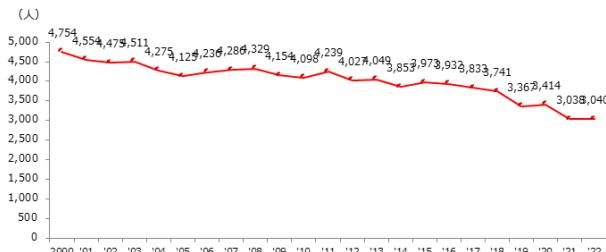
(単位：円)

科目	金額	内訳など
謝金	44,000	スタッフ研修講師料(マネジメント研修)
謝金	22,000	スタッフ研修講師料(接遇研修)
交通費	42,000	ボランティア交通費 金沢市内 1000円×7日×2人 スタッフ交通費
交通費	12,260	マネジメント研修講師交通費(金沢⇒敦賀：7260) 金沢駅⇒会場(2500×2)
交通費	5,000	接遇研修講師交通費(金沢市自宅⇒会場：2500×2)
印刷製本費	25,000	にじのわスタッフ・ボランティアのための 座学研修とルールブック作成費
印刷製本費	15,000	抱っこ教室チラシ作成 (A4カラー印刷 2500部)
印刷製本費	20,000	パネル作成(2個)
印刷製本費	17,600	スタッフ腕章・名札シール印刷(各8800円)
謝金	15,000	デザイナー謝礼 (昨年度のチラシを元に改変)
謝金	4,400	イラストレーター謝金 (昨年度のデータを改変)
使用料及び賃借料	17,500	抱っこ教室(2,500円×7日) (金沢未来のまち創造館、または月照寺)
使用料及び賃借料	10,000	動画撮影(2,500×4日)
使用料及び賃借料	10,000	スタッフ・ボランティア研修会(2500円×4日) 未来のまち創造館
使用料及び賃借料	12,500	会議会場賃料(2500円×5回) 月照寺
消耗品費	10,000	模造紙、ガムテープ、サインペン、ボールペン、方眼ノート、コピー用紙、インク代、
消耗品費	6,600	動画撮影用マイク
食糧費	7,300	抱っこ教室軽食費(1000円×7日) 講師飲料(150×2本)
保険料	14,000	レクリエーション保険(1000円×2回×7日)
委託料	70,400	動画編集費 8800円×8本
委託料	44,000	にじのわ学校 校章デザイン費
印刷製本費	22,000	にじのわ学校 校章幕作成
計【B】	446,560	

【A】収入合計と【B】支出合計は一致(同額)させてください。

【資料①】

金沢市の出生数の推移
(住民基本台帳ベース、日本人住民)



※1月1日から12月31日までの外国人を除く日本人住民の出生数。

※市区町村の場合は2023年1月1日時点の市区町村境界。

© jp.gdfreak.com

【資料②】

【女性の平均初婚年齢と第1子出産年齢の推移】



出典：金沢市衛生年報

【資料③】現在のにじのわ事業】

子育てをするすべての人が安心と愉しさで満たされる社会へ

にじのわサロン

参加費 無料

赤ちゃん連れの親子が楽ししく過ごせる遊び場を解放しています。スタッフは医療専門隊です。子育ての中で気になること、気軽に相談してください。

離乳食カフェ

離乳食について悩んでいるママに悩みを解決!
赤ちゃんを育てているママはみんな離乳食で悩んでいます。
実際に食べている様子と一緒に見ながら必要な情報を伝えます。安心して離乳食に向かってください。

完全予約制です
こちらよりご予約ください

QRコード

LINE

HP

にじのわサロン
離乳食カフェ
抱っこ教室
みつばちくらぶ
てんとうむしくらぶ
個別発達相談

詳細は こちらから

抱っこ教室

赤ちゃんもママも快適な抱っこを学ぼう!
「抱っこが苦手」「苦にならない…」とお悩みの方はぜひ参加してください!赤ちゃんの体やがわがわかると抱っこが楽らくになりますよ。
次回は2023年1月14日㈭開催です。

みつばちくらぶ
てんとうむしくらぶ

穏やかな気持ちで集団の中で生活できる!
ちょっと敏感な所がある赤ちゃん心配…
元気が良すぎるから間での生活が心配…
こんなお悩みがあつて大丈夫。
我が家子の特性を理解し、我が子に合う開け方を学べます。

マンツーマンで
相談したい方は 個別発達相談

赤ちゃんが寝ない・寝かしづらいなど赤ちゃんが居づいている発達がゆっくりと気が付く・そんなお悩みに対してマンツーマンでゆっくりお話を聞き赤ちゃんの発達を促す方法をお伝えします。
赤ちゃんだけでなく幼児期、学齢期のお子さんの相談も受け付けます。

【資料④】今後のにじのわ事業の発展の方向性】

ボランティア：助産師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師などの医療専門職他、無資格の人材含む

	【入口・導入支援】 にじのわサロン	【低月齢児の支援】 抱っこ教室	【6か月以降の支援】 離乳食カフェ	【幼児期】 【就学前～5歳】
単発教室	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての悩みからの救出 ・子育ての疑問は即時に解決できないということを知る ・他の者の子育てより多様な子供を見る ・子どもの育ちには流れがあることを知る ・他の者の子育てにより自身の価値観を知る ・共に居る事で解消できる不安を取り除く 	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児期～低月齢児の赤ちゃんの体の仕組みを知る ・新生児期～低月齢の赤ちゃんの生活リズムをリードする大切さを伝える ・赤ちゃんの寝姿勢を考え方を知る ・赤ちゃんにとっての抱っこ意味を知る ・今のお親子に合う抱っこを「1つ」知る、練習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食が始まる時期の養育者の食を見なおす ・養育者が他者とおいしく飯を食べる ・他児の離乳食の様子を見る・知る ・離乳食に関する悩みに対して、食形態・食材以外の課題を見つける ・今のお親子にある離乳食時間の間わりを「1つ」学ぶ・練習する 	<p>単発の開け方では混雑を招くため 教室は実施しない</p> <p>*情報提供の会は実施する</p>
	骨盤ケア教室	親子教室①	親子教室②	幼児教室
連続教室	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中・産後の女性の体を整える ・軽いワークを通して、呼吸や身体感覚を取り戻す 	<p>【知らなかったという言葉をなくしたい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝かせ方 ・抱き上げ方・降ろし方 ・抱っこ ・授乳の抱っこ ・オムツの替え方 ・遊び方 	<p>【知らなかったという言葉をなくしたい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抱き上げ方・降ろし方 ・抱っこ ・授乳の抱っこ ・腹ばい遊び ・食べるための準備 	<p>【みつばちくらぶ】 ・2～3歳</p> <p>【てんとうむしくらぶ】 ・4～5歳</p> <p>集団生活に不適応を示す子どもとの養育者のための親子教室</p>

【資料⑤：講座内容】

<ボランティアスタッフ向け>

- ① にじのわのしくみ
- ② 各事業の紹介（目的・こう在ってほしい親子の姿・スタッフの立ち位置）
- ③ 赤ちゃんの体のしくみ
- ④ 抱っここの話

<スタッフ向け>

- ① 赤ちゃんのタイプ分け・ママのタイプ分け
- ② ママサロンの構造・親子のマッチング
- ③ 抱っこするときの視点と手順
- ④ 離乳食カフェ・初期食と中期食を安全に食べる事が出来る運動発達と食事支援

【資料⑥：抱っこ教室チラシ（添付資料は昨年度分）】

